

merry christmas

あぶらむ通信

第38号 2016年12月 あぶらむの会発行
〒509-4121 岐阜県高山市国府町宇津江3225-1
TEL 0577-72-4219 FAX 0577-72-4494
E-mail : abram@hidatakayama.ne.jp

韓国の修道院から届いた手描きクリスマスカード
修道院のキムチ漬け
by Sr. マーサ

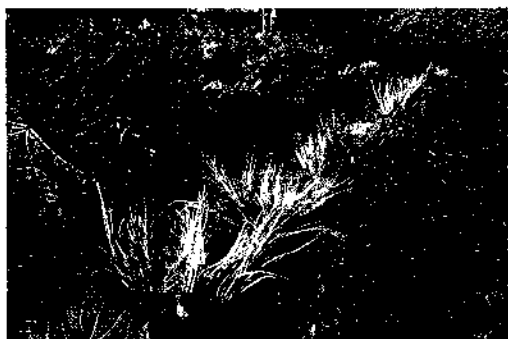


飛騨便り

年に一度のささやかな活動報告としてのあぶらむ通信、2016年も残りわずかとなりました。この一年も健康が与えられ、それなりに役割が果せこの通信をお届けすることができ、ありがたく思っています。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

この地に根ざして30年、この冬ほど雪のない冬ははじめてでした。何しろ冬の大作業である「屋根の雪おろし」を一度もせず済んだのですから！年明け恒例行事になっている沖繩の子ども達の雪遊びも雪を求めて三千里、例年ならばとっくに通行不能の裏山林道を走ること20分、山陰の北斜面に積っていた5cmほどの雪でかろうじて遊べるような状態でした。

おかげでからだはとっても楽しさせてもらったのですが、そのツケは意外なところに現われたのです。畑虫の大発生！冬用野菜の白菜や大根の種まきは旧盆ごろ、順調に芽が出たのですが虫の初期防除に失敗、「新種の水菜ですか」といわれるほど無惨な結果になってしまった。私たちとしては従来通りの手順でやってきたのだが、雪の少ない年は虫が大量発生することを知らず、無農薬の限界、気がついたころはすでに時遅しで手の付けられないような状態でした。そんな中でせめてもの慰めは手作業の虫取りで集めた畑虫が、池にいる岩魚やニジ鱒のかっこうのエサとなるということでした。自然の全てが絶妙なバランスの上にあることを改めて教えられたのです。



新種の水菜？ 葉脈だけとなった白菜

○家庭裁判所の「補導委託制度」、あぶらむ12年目の現状

家庭裁判所の管轄下に在る非行少年、その少年と半年間ほど生活を共にし、新たな歩みへの方向付けをするのが「補導委託」とよばれる制度です。この12年間で18人、一人も「逃亡」がないことが私たちのささやかな喜びであり自慢でしたが、19人目にして厳しい現実が突き付けられました。昨年11月中旬に来た少年、私の沖繩出張の間に逃亡するという問題が起ったのです。来てから1ヶ月後のことでした。そしてさらに悲しいことに、ここで生活を共にする者のスマホや現金などの盗難も重なり大事となった。少年の将来を考えた時、自分のやった行為と正しく向き合わなければならない、そのためには事件の立件、そしてそのための被害届。預ったからには自分の子ども、その子を訴えなければならないなんて…、無力だった。少年は逮捕され少年院送致となった。

それから一年、10月末に少年から突然手紙が来た。ケータイを盗ったのは淋しかったから、一人が嫌だったから、暴言をはいたのは自分がガマンできなかったから、逃げてしまったのは目の前の嫌な事をやりたくなかったからと。そして、

「僕は、少年院という場所で失敗をたくさんしながら成長しています。

自分の考え方の甘さや、自分の弱さを自分で観察をして、しっかり認める事ができました。嫌な事からも逃げずにがんばっています。

自分のしてしまった事も後悔しています。

謝っても許されない事、どうすればいいのか、途中でわからなくなってしまいました。でも、自分の更生した姿をみせる事で許されはしないけれど、変わったなと思ってもらえると考えました。

手紙をだそうとした理由は、一所懸命に僕の事を考えてくれていたのに、裏切ってしまった事を謝罪しなかったからです。僕が少しずつ成長している所をみて欲しいからです。」と書かれていた。

そんな少年に、今の気づきに至るまでにこれまでの全てのことが必要だった事、少年の謝罪を受け容れ、これからも必要な応援をおしまない旨手紙を書き、あぶらむ通信第35号の「ある家裁少年の手記」を同封した。

「自分は自分だけが辛いと思っていました。でもそれは違う、世の中にはたくさん苦勞している人がある。何回転んでも立ちあがろうとしている人がある。みんな明日を乗りきろうと今、がんばっている。自分は一人ではないと思った時に心が軽くなりました」と書かれた第2便が届いた。そして面会が許されるようになったので面会に来て欲しい、でも遠路なので無理はしないで下さいと私のからだを気遣ってくれていた。自分と深く向き合うことによって少年の心の中に「他者」が住みはじめたことを知り私は嬉しかった。少年院の面会時間は30分、たったその30分間のために片道300kmを走らなければならない。でも「君は一人ぼっちではない」というメッセージを届けることが私たちに出来る唯一のこと、私は走った。少年は喜んでいた。

○あぶらむの仲間、養護里親研修に挑戦

この19番目の少年の逃亡事件は私たちの中にいろんな波紋をおこした。12年間19人、もう一区切りつけてもよいのではという気持ちもあった。でもこんなことで後姿を見せてと思われたくないという気持ちも…。正直、自分の気持ちがどこにあるのかわからなくなった。ただ一つ強く思わされてきた事は、2～3の少年を除いてあまりにもその成育環境が酷で劣悪であるということだった。それは親を含め周囲の大人、社会の責任である。非行や犯罪に走った少年の更生に関わることも大切だが、そこに至るまでに大人として、社会として果すべき役割があるのではないかと強く考えさせられた。その結果、家裁の補導委託制度の中で預かる少年は現状のままにしつつ、養護養育里親としての働きを充実すべく、あぶらむに関わる者5名、養護里親としての資格認定を得るために岐阜県主催の研修に参加することとなった。

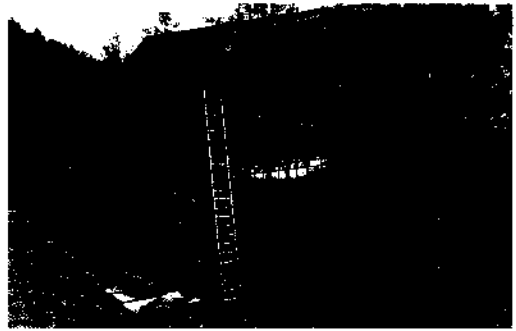
研修内容そのものは眠気をおしのけて目を見開くほどのものではなかったが、施設実習は色々教えられる日々だった。そして、それが縁で地元唯一の養護施設「夕陽ヶ丘」の「ショート(短期)里親」を担うこととなった。またそれとは別に、地元児童相談所にあぶらむが養護養育を必要とする子を受け容れる場としてふさわしいと認定されるよう、必要な手続きをとった。日本政府はこの10年間の内に養護里親の元での養育3割、5～6人の少人数でのファミリー



材料倉庫の自力建設開始、丸太の切り出しからはじまった。

ホーム3割、他は従来の養護施設での養育を計画しているのだが、現状では施設養育が中心で、個人里親やファミリーホームなどに養護を必要とする子どもが託されていないのが現実である。

さて、この件は今後どう展開して行くのか、無責任なようだが自分でもよくわからない。導きのままにということである。でも可能性を求めて準備だけはしておきたいと思っている。



完成した材料倉庫、よく頑張りました。

○創設30周年記念を迎えるあぶらむ

1986年、単身高山の職業訓練所に学んだ私、この飛驒の地であぶらむ構想の実現を目指そうと決意し、翌87年家族を呼び寄せ同時に実践教育活動あぶらむの会を旗揚げした。それから30年がたとうとしている。「石の上にも30年」で、多くの人々の支えによってあぶらむの会はここまで歩んできました。

先日、東京の先輩司祭(牧師)より、あぶらむで用いてほしいとクラシックや教会音楽のCD150枚ほどが送られてきた。大切なコレクションの一部なのだと思います。感謝しつつ、少しずつ身辺整理をしておられる姿が伝わってきた。

男性の平均寿命80才、健康寿命71才というのに、70才をすぎた私はあぶらむの働き拡張の道を進んでいる。それも未だ後継者がいないというのに…。しかし私の思いは、事業拡張欲とかそんな世俗的なものではなく、皆さんからの多大なご支援によって与えられたこのあぶらむの里という場の持つポテンシャルティー(可能性や潜在的な能力)を、次代を背負う若者育てのためや援助を必要としている人に十分に提供して行きたい、このあぶらむという場を持つ人を育む力を十分に発揮して行きたい、それがこれまで支援して下さった皆様への私のせめてものご恩返しと思うからです。

最近私が冗談半分本気半分よく口にするのは「死んでいるヒマ(隙、暇、閑)はない」という言葉です。健康だから云えるのでしょ、やることがあるから云えるのでしょ。2017年あぶらむ創設30周年の年を迎えるのを期に、もう一働きしたく願っていますので、ご支援のほど宜しくお願い致します。

今年大ヒットしたアニメ映画に「君の名は」というのがあるそうです。残念ながら飛驒地域には映画館がないので未だ観ていません。何の変哲もない田舎の飛驒古川駅に人があふれている理由、やっとわかりました。そのうちにあぶらむの里を訪れる人々で駅がにぎわう日を！亡き母の声が聞えてきます、「あんまり夢ばっかみとってしょんべん(小便)たれられんなやー」、ハイ肝に命じておきます。それにしても飛驒はよいところです。あぶらむ創設30周年を期にどうぞお出かけ下さい。(記念行事はメルマガにてお知らせします)

それではどうぞよいクリスマスを、そしてよいお年をお迎え下さい。

2016年12月

あぶらむの会 代表 大郷 博

韓国ソウル城郭ウォーキングと江華島の旅

埼玉キリスト教会牧師 李 禎善

韓国の首都ソウルは、朝鮮王朝(1392 - 1910)の設立と共に都として定められた。朝鮮王朝は長い年月をかけて、都のソウルを防御するためにソウルの北側に北漢山城(12.7km)、東南側に南漢山城(11.7km)、またソウル中心部を取り囲むような形の漢陽都城(ソウル城郭 18.6km)を構築した。都として長い歴史をもつソウルには多くの文化財や見所がある。その中で私が一番気に入っているところはソウル城郭である。ソウル城郭は歴史的、文化的な価値、芸術的な美、自然や構造物との美しい調和などが感じられるところだと思う。私は、2015年6月ソウルを訪ねてきた大郷先生と一緒に二日にわたってソウル城郭の一部区間を歩いた。この際、大郷先生から2016年に日本の方々と一緒に韓国ソウル城郭ウォーキングと歴史の旅を進めたいので、私にその日程を案内してほしいと依頼されて、私はそれを引き受けることにした。たいへん光栄なことである。

9月16日(金)、東京、名古屋、富山の各空港より10名の参加者が各自で手配した便でソウルに集合した。

9月17日(土)、朝から雨が降り今日の予定であった仁王山や北岳山の区間を明日に変更し、今日はソウルの東北に位置する恵化門から城郭ウォーキングを始めることにした。

1392年に朝鮮王朝が設立された以降、ソウル城郭は1396年1月から約20万人が動員され98日間掛けて完成された。さらに同年9月には四つの大門と四つの小門も完成された。その後、1422年には32万人が動員され38日間、城郭の修理及び補修が行われた。また、1451年と1616年、1704～1711年、1743年にも大々的に修理補修の工事が行われた。その後、日本植民地時代(1910 - 1945)や朝鮮戦争(1950 - 1953)の時、相当の城郭が撤去・破壊されたが、1974年から少しずつ復元事業が始まり、現在は全体の長さ18,627メートルの中で69%である12,771メートルが復元された。そこで、2012年11月に世界遺産暫定リストに登録され、2017年6月の世界遺産登録を目指している。一方、ソウル城郭には1396年と1422年、1710年に築かれたそれぞれ違う特徴の石積みが見られる。さらに城郭の至るところで朝鮮時代の工事責任者の名前や官職名なども刻まれていて、それを探してみるのもソウル城郭ウォーキングの楽しみの一つであると思う。

ソウル城郭には構築当時、人や物資の出入りのため、東西南北に四つの大門、大門の間に四つの小門が設けられた。この中で恵化門は北大門と東大門の間に位置する東小門であり、ソウル城郭と共に1396年に建立された。その後、1592年に火事により門楼が消失、1744年に再建されたものの、日本植民地時代の1928年に取り壊された。その後、1994年に再建され現在に至っている。この恵化門の門楼天井には大きな二羽の鳳凰が描かれている。それは昔この一帯にさまざまな鳥が多くて農業に多大な被害が発生し、鳥による被害を防ぎ、それを祈願するために鳥の王に値する鳳凰を描かれたと言われている。

朝9時20分、恵化門から城郭ウォーキングを始めて9時55分に駱山頂上(125m)の展望台に到着した。恵化門と駱山城郭の外側には長寿村と呼ばれる町がある。ここは朝鮮戦争中に避難してきた人たち、農村からソウルに出稼ぎにきた人たちが集まって形成された町である。住民の65%が65歳以上、住民の殆んど居住期間が40年以上なので長寿村と呼ばれるようになった。

駱山展望台から眺めるソウル市内、北漢山の風景は立派である。駱山はソウル中心部から見る



駱山展望台にて

城(おうじょう)があり、文禄・慶長の役で加藤清正と戦功を競っていた小西行長が加藤に先立って通過した門とも知られている。ここで偶然に出会ったネパールの人たちと一緒に記念写真を撮った後、東大門デザインプラザ(DDP)と最近復元された五間水門を通りすぎて、午前11時5分頃に光熙門(南小門)に着いた。この門は1396年に建立された後、1928年に忠化門と共に撤去されたが、1975年に再建された。この近くには二間水門、五間水門があったため、水口門とも呼ばれている。さらに朝鮮時代、城内の墓地を建てることを禁止していたため、都城の外へ葬儀行列が通過する門であったので屍口門とも呼ばれている。光熙門の近くのカフェでしばらく休憩した後、12時頃に城郭ウォーキングを再開、午後12時20分に奨忠壇公園に到着した。公園内の韓屋食堂でビビンバで食事中、車輿道(チャフンド)牧師が合流して食事を共にした。

食後、1時15分から奨忠壇公園から城郭ウォーキングを再開、新羅ホテルやバンヤンツリーホテルの裏にある緩やかな城郭道を通りすぎ、さらに国立中央劇場から南山頂上まで繋がるきつい登り道を歩き、午後3時頃にソウルタワーの入口、南山頂上(271m)の広場に着いた。この山はソウル都城の南に位置していて、北側の北岳山、東側の駱山、西側の仁王山と共にソウルの中央部を取り囲んでいる。また頂上には烽火台が設けられている。山頂広場には朝鮮伝統の剣舞やサムルノリなどの公演が開かれて、一行と共にしばらく見物をした。午後3時30分、城壁の内側に沿って山を下り4時頃に南山公園(朝鮮神宮の跡地)に着いた。朝鮮神宮は1925年、日本によって建立された後、韓国人に神社参拝が強要されて反発を買ったところであったが、1945年の終戦と共に撤去された。また、南山公園には朝鮮の独立運動家、安重根(1879 - 1910)の銅像



南山公園、城郭の下り道にて

と駱駝のこぶのような形をしているため付けられた名前。この山は朝鮮の6代王であった端宗(1441 - 1457)が叔父の陰謀によって王位を迫られ殺害された後、端宗の妻、定順王后(1440 - 1521)が一生、亡くなった夫を偲びながら唄ったところでもある。しばらく展望台で休憩をした後、約30分くらい下り坂を降りて午前10時30分に興仁之門(東大門)に着いた。

東大門は1396年(太祖5年)に建立された。

この門はソウル城郭の大小門のうち、唯一甕

や記念館がある。彼は日本からみると伊藤博文を殺害したテロリスト、韓国からは愛国者、独立運動家として評価されている。私は、彼が処刑される前に書いたと知られる東洋平和論を何年前か読んだことがある。韓国と日本、中国の連合や平和協力を願い、夢見ていた彼の切ない願いが、今、この時代に実現されるように心から願う次第である。以降、公園から約10分を歩き4時30分に崇礼門(南大門)に着いた。朝鮮時代、四大門の中で一番規模が大きかった南大門は1398年に建立さ

れた。その後1448年と1479年、1963年、3回にわたって新築や改築が行われた。韓国の国宝第1号にも指定された南大門は多くの人に愛されてきたが、2008年2月に放火により消失し、多くの国民に衝撃を与えた。その後、3年にわたる復元工事の末、2013年5月に一般市民に公開された。南大門はソウルだけではなく韓国を代表する建築物であり、今も多くの人に愛されているおふくろのような存在だと思う。この南大門の前で、今日の城郭ウォーキングを終えることにした。

9月18日(日)、すばらしい秋日和である。西大門の跡地からウォーキングを再開し北の方へ350mくらいを歩くと、ソウル市教育庁の垣根として使われているソウル城郭が見えてくる。懐かしい友達に会ったような気がする。ここから城郭沿いの登り道を20分くらい歩くと、仁王山の入口に至る。ここから頂上まできつい登り道が続き、ゆっくり城郭道を登ったり休憩したりして10時50分頃に山頂に着いた。仁王山(338m)はソウルの鎮山として昔から多くの人に愛され、絵画や漢詩によく登場している。巨大な岩でなされている山でスカート岩、禪岩、虎岩、汽車岩など様々な奇岩怪石が多い。



仁王山を背景にして

1968年1月、北朝鮮特殊部隊による青瓦台(大統領府)襲撃未遂事件に発生して以来、立ち入り禁止になっていたが、1993年によりやく制限が解除され市民に公開された。だが、山の至るところに警戒哨所や軍事施設があり一部では写真撮影や立ち人禁止になっている。早く平和な時代が訪れ、これらが早く撤去されるように切に願う次第である。山頂から眺めはとてすばらしい。ソウルを旅行する人に絶対におすすめしたいところである。その後1時間くらい山を下り、仁王山と北岳

山の間、西大門と北大門の間に位置する彰義門(北小門)に着いた。この門は1396年に都城と共に立てられて、1741年には門楼が再建されて以来、四小門のうち唯一原型が保たれていて国の宝物に指定されている。また、この一帯は霧が多くて紫霞洞という名前が付けられ、この門を紫霞門とも呼んでいる。このあたりは1968年1月に北朝鮮特殊部隊と韓国の軍警の間で激しい銃撃戦があり、多くの死者が出た場所でもある。一行と共に彰義門の近くの食堂で昼食をした後、北岳山の城郭道に入るため、彰義門案内所に申込書を書いて提出した。北岳山は青瓦台が間近にあるため、1968年1.21事件以来、長い間立ち入り禁止になっていたが、2007年4月から一般公開された。案内所から城郭道に入り、きつい登り道を約40分歩いて午後2時10分頃に北岳山(342m)のてっぺんに着いた。この山はソウルの主山として白岳山とも呼ばれており、市内から見上げると角のような形をしている。この山は仁王山、駱山、南山とともにソウル盆地を囲んでいる。山頂は樹木に囲まれて展望はあまりよくないが、周りの岩や木の幹に1968年1.21事件の銃弾の跡が残っていて子供たちに歴史の教育現場として使われている。この地の平和を祈り、悲しい歴史が二度と繰り返されないよう心より願う次第である。

その後、近くの馬岩(マルバウイ)でしばらく休憩を取った。ここで陽気でお茶目な韓国アジュンマ(おばさん)たちに会い、一緒に記念写真を撮った後、馬岩から約25分を下山し、午後4時10分に三清公園に到着した。ここで二日にわたるソウル城郭ウォーキングを無事に終えることができた。誰一人怪我することなく無事終わったので、本当にありがたく嬉しい気持ちでいっば

い。夕方には仁寺洞(インサドン)、伝統文化の街を歩き回り、夕食もこの街の韓食堂で韓国ウルトラマラソン協会の人たちと共にした。日本と韓国、お互いに言葉は違うけど、相手に対する真心や親切、親しみが感じられる有意義な時間だったと思う。



江華平和展望台にて
対岸が北朝鮮

9月19日(月)、昨日と同じく晴天な日である。朝早く友人の元(ウォン)牧師が乗合自動車を運転して宿まで来てくれた。朝食後、一行と共に乗合自動車へ乗り込み、午前8時20分に宿を出発した。車で約2時間走り、10時20分に江華平和展望台に到着した。ここは江華島の一番北に位置し、江華湾を挟み対岸に位置する北朝鮮の住民の暮らしぶりが肉眼で見られるところである。このあたりは多くの軍事施設があり、一般人の出入りが厳格に禁止されていたが、2008年9月に平和展望台が開館されて以来、多くの人が訪ねて

平和を念願する場所になっている。展望台は地下1階から4階までになっていて、一般観覧客に開放されているのは1階から3階まで、ここでは様々な映像や写真などが見学でき、望遠鏡で北朝鮮の風景を眺めることができる。地下と4階は江華島に駐屯する海兵隊専用施設があり、立ち入り禁止になっている。望遠鏡で向こうの風景を眺めていると、ふっと一羽の鳥になり江華湾の向こうまで飛んでいきたい気持ちになる。鳥のように誰もが南と北の間を自由に出入りできる平和の日が一日も早く訪れるように切に願い祈る。ふっとこういう想像をしてみる。その日になると、ここから向こうまで橋が設けられるだろう。その時、皆と一緒に橋を渡って向こうまで入ることができるであろう。切にその日を夢見てみる。

日本の皆様と一緒に5泊6日間韓国で滞在しながら、いろいろ有意義な時間を送ることができたのではないと思う。特に私は日本の方々をガイドしながら、様々な韓国の方々との出会いの中で、一人一人から大郷先生や日本の方々に対する深い感謝と尊敬の心を感じ取ることができた。彼らは私に大郷先生とあぶらむの方々からいただいた温かい親切と心のこもったおもてなしについて、いろいろ聞かせてくれた。その方々は、自分はそこで一生忘れられない、素晴らしい体験をしたと、みんな口を揃えて話してくれた。それは、私も一緒であった。その気持ち、その体験は私も一生忘れることはできないだろう。

私も、わざわざ日本から来られた方々に、今回の旅を通してそういう感動、その体験をしてもらいたいと願っていた。今回の韓国旅行、日本の皆さんはどうだっただろう。これから、私は日本の方々と共に韓国のいろんなところを旅し、いろんな人と出会い、いろんなことを学び合い、今まで知らなかった世界、見えなかった世界の中に入り、共に一生忘れられないすてきな体験をしていきたいと願っている。その案内者になりたいと願う。最後に朝鮮時代、朝鮮の学者、文章家であった兪漢雋(ユハンジュン、1732 - 1811)の一句を引用して、この文章をまとめた。

愛すると知るようになり、知るようになると見えるようになる。そのときに見えるのは前のとは違うだろう。

東北原発被災地 小名浜聖テモテ教会 教会学校子どもたちのあぶらむリフレッシュキャンプ

北関東教区執事 岸本^{のぞむ}望

私は2015年4月から東北教区に出向し、福島県いわき市の小名浜聖テモテ教会と聖テモテ幼稚園、聖テモテ支援センターの働きに従事していました。原発事故による避難地域から来られた方が、気心の知れた仲間と過ごす「ほっこりカフェ」の運営を仮設団地集会所でボランティアと共に担っていました。東日本大震災による被害のうち、まだまだこれからと言わざるを得ない問題が、放射性物質による健康被害の懸念です。特に子どもたちへの影響は、行政による甲状腺検査でも明らかになってきているように見えますが、この日本社会の大勢は断固として事故との因果関係を認めないのではないかと恐れます。

いわき市の子どもは、野山を駆け巡って山野草を採取したり、海で思う存分泳いだりすることが、大震災以降できていません。汚染水の流出のみならず、除染作業が終わったとされる公園や少年自然の家などでも、脇や谷あいには隠すように除染廃棄物が詰まったフレコンバックが積んであります。教会日曜学校の子どもの、大自然の中で思いっきり遊ばせたいとの願いから、昨年のおぶらむ通信第37号の2～3頁にあるように、2015年9月、越山健蔵可祭と共にあぶらむをお訪ねしました。いわき市に住まわれる方々の状況や思いを大郷先生に熱くお伝えしたところ、「いよいよあぶらむの出番が来た」と力強く仰ってくださいました。同年10月には実際に福島県の原発避難地域に来訪され、私たちの働きを応援する意を強くしてくださいました。

日曜学校「リフレッシュキャンプ」は、2016年8月8日(月)～11日(木)の日程で開催されました。子ども11名大人5名の参加者が、マイクロバスにて片道8時間かけて、あぶらむの里に到着しました。嬉しいサプライズが待っていました。「あぶらむの子どもたち(自然学校から引き続き残っている子どもや、ボランティアスタッフとしてキャンプを支えてくださった方の子どもの)」が、大郷先生運転するローダーのバケットから、歓迎の横断幕を手にもや遅しと到着を待っていてくれたのです。まず初めに体験したことは、一緒にバケットに乗りあぶらむを一周したことでした。子どもたちの心は、あっという間に驚愕みにされました。この後4日間、楽しいことが待っているに違いないと、旅の疲れも吹っ飛んでワクワク感が溢れたのでした。

多くのスタッフが丁寧に準備を整え安全を確保してください、小名浜での生活では体験できないプログラムが待ち受けていました。自分がこんなにも沢山食べられたのかと、それぞれが驚いた石窯ピザ作りとバイキング。大郷先生から「海の子、小名浜らしくて良い!」とお褒めいただいた巨大壁画作り。ロープを用いたツリークライミングでは、コツをつかんだ友達に先を行かれるのが悔しくて、何度もチャレンジし直す子どもがいました。日曜の礼拝の後に外



歓迎、ようこそあぶらむへ

遊びをしようと誘っても、携帯ゲーム機に心奪われてしまっていた子どもが、必死に汗をかきながら上っていったのです。蜜蝋燭づくりでは、「早く早く」の価値観に置かれている子どもが、じっくり丁寧に蠟燭を育てていく姿に、違った価値観を学ばせていただいている配慮を感じました。

メインプログラムとして乗鞍岳登山を計画していましたが、子どもの様子を見た大郷先生から双六川での川遊びを提案いただきました。登山による達成感よりも、今回は思う存分に自然を楽しんだ方がよいとの趣旨で、子どもたちに諦めたところ大郷先生の仰ることなら間違いないだろうと川遊びに臨みました。思いつく限りの安全対策が取られた上での、岩からの5mもの飛び込みや川の流に身を任せる遊びが用意されていました。初めは尻込みをしていた子どもも、次々にチャレンジするあぶらむの子どもに影響されて、引っ込み思案のあの子どもこの子もまさかの大チャレンジ、あっという間の成長を垣間見せてくれました。

食事については、育さんはじめスタッフの方々が、あぶらむで採れた食材を中心に心を込めて調理をしてくださいました。慣れ親しんでしまっているファストフードではなく、食材そのものの味が生かされたスローフード、野菜嫌いだと親が酷く心配していた子どもが「私、食べられるようになった！」と元気に報告してくれたとき、豪華でなくても安全安心で美味しい食事を子どもが食べて育つのは、基本的な権利なのだと確信しました。

私が当初願っていたことを遥かに超えて、小名浜の子どもたちに良き力が与えられました。一つは、あぶらむの子どもたちによる励ましです。大人たちのみならず、同年代の子ども同士と一緒に遊ぶうちに、心から歓迎されているとの実感を得ることができたと思います。何かができるから評価されるのではなく、またその逆でもなく、小名浜から来たというだけで全存在を受け入れてくれた経験は、生きていく上での根本的な自信に繋がったと思います。もう一つは、あぶらむの自然は(もちろん剥き出しのものではなくスタッフの周到な準備のおかげですが)、ただ子どもがそこにいるというだけで子どもらしくなっていく。ちゃんと自分で成長していく気概を取り戻していける場なのだと思います。

私と共に長時間マイクロバスを運転して下さった加倉井さんをはじめ、多くのスタッフや支援者の皆様に、心からの感謝を申し上げます。小名浜に戻った子どもたちは、沢山の写真を親に見せながら嬉々として思い出を語りました。私自身は東北での働きを終え、東京の聖公会神学院に居を移しましたが、11月の初めの研修期間において神学生を伴い再びあぶらむの里に滞在させていただきました。「自己の人生に果敢に挑戦し、人生の良き旅人を育てるため」、あぶらむの里が神に祝福されて益々用いられますよう、お祈りいたします。



清流双六川の川遊び
いつの日か故郷の野や川で…



福島小名浜の子どもたちの明るい色使い

おしらせ

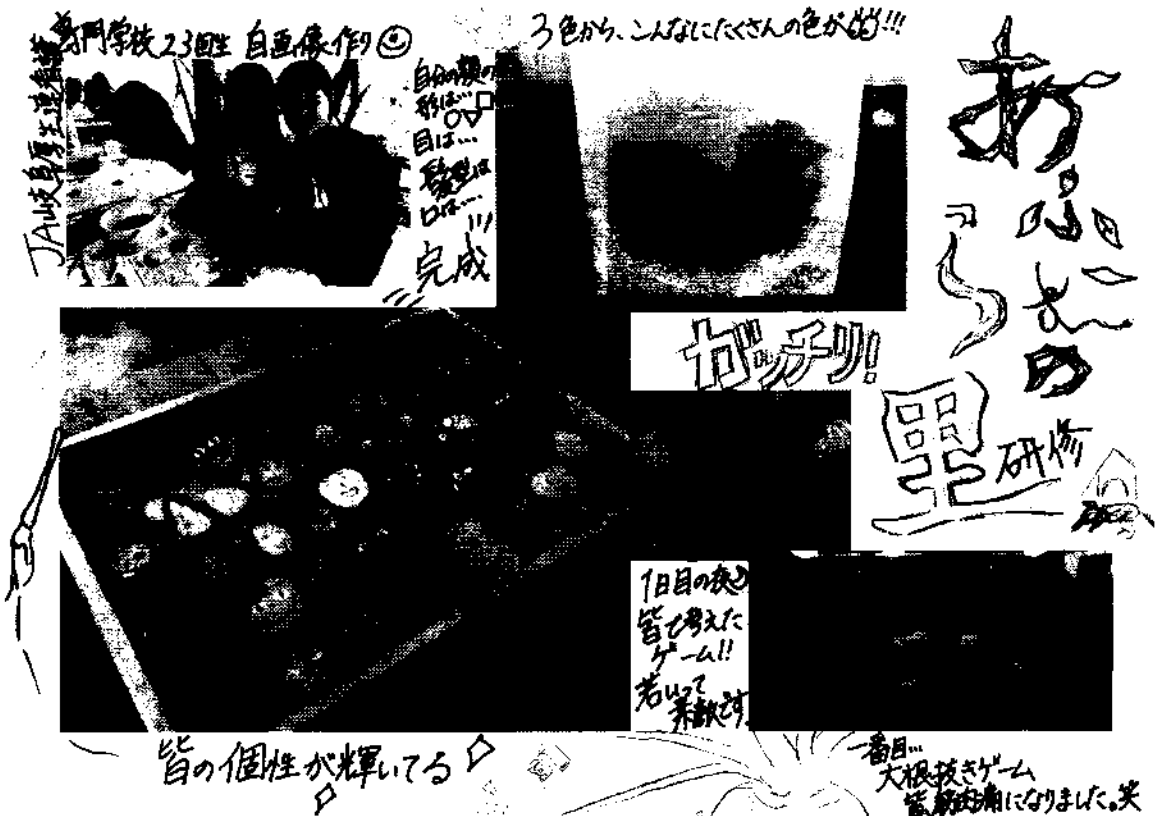
あぶらむ創設30周年の祝会を計画しています。皆様の予定の中に加えていただければ嬉しく思います。

祝会日 2017年9月16日（土）～18日（月）

場 所 あぶらむの里

あぶらむ宿泊研修

毎年10月催される地元JA 岐阜厚生連看護専門学校のあぶらむ宿泊研修。2年生の彼らは3年間の学業のちょうど折り返し地点。看護師国家試験にむけて胸突き八丁にあたる。静かな場の中で今一度自分と向き合い、自分の召命を再確認し、後半戦にむけて心を新たにするのです。そんな彼らからお礼にとこんな素敵な写真が届きました。みなさんにもお届けします。よい看護師さんになって下さいね…。



1.2.3.4.5.6.....

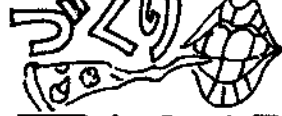
2日 早起きピザ準備



作
る
コ
ツ
は
;
急
ぎ
で
す



PIZZA



上手にたさん
作ります

Smile

何者か?



玉ねぎ



うま!!
おいしい!!



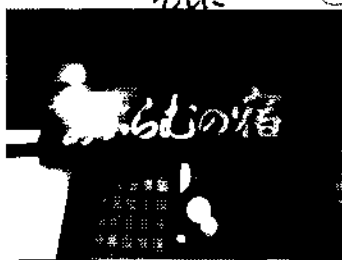
ピザソース

チーズ

10/14

キリ——ン

1泊2日 10/12~10/13 あつたいう間々 大郷さん素敵な時間をありがとうございました



自然に囲まれて
落ちつく空間♡



夜も静かな



初めて
皆でれを囲んでの
夜ご飯Time

37名バモ一ツに

お風呂に入った後に
おいしいご飯がずり!!!

いたたま



す

『第4期通常総会 開催報告』

第4期通常総会を2016年3月に開催いたしました。今回、東京の日本聖公会神田キリスト教会で開催しました。総会終了後『2015年あぶらむ里山自然学校』DVD上映、杉木峯夫さんのトランペットミニコンサート、懇親会を行い、多くの方に参加いただきました。心よりお礼申し上げます。

日 時：2016年3月5日(土) 15:10～16:00

場 所：日本聖公会神田キリスト教会

出席者：正会員39名、その他2名

総会次第：

- (1) 開会挨拶・役員紹介
- (2) 議長・議事録署名人・書記の指名
- (3) 定数の確認
- (4) 議案

- ・第4期活動報告
- ・第4期決算報告及び監査報告

<貸借対照表>

資産合計85,092,611円 (流動資産36,127,391円 固定資産48,965,220円)

負債合計 216,201円 (短期借入金216,201円)

正味財産84,876,410円 (うち当期正味財産増加額5,532,714円)

<収支内訳>

収入合計17,534,202円 (会費収入1,868,830円 寄付収入6,946,360円

研修収入7,324,306円 他)

支出合計12,001,488円 (減価償却費を除いた実質支出11,066,763円)

当期収支 5,532,714円 (減価償却費を除いた実質収支6,467,439円)

- ・第5期活動計画
- ・第5期予算(案)

<収支予算案>

収入合計15,000,000円 (会費収入2,000,000円 寄付収入5,000,000円

研修収入7,000,000円 他)

支出合計12,584,000円 (減価償却費を除いた実質支出11,650,000円)

ものづくり作業棟建設費用1,000,000円

当日の資料、議事録は、あぶらむの会ホームページに掲載しています。

<http://www.abram-no-kai.com/>

画面右メニュー "会員専用ページ" (パスワード:UTE48) にログインして、

画面右メニュー "2016年総会・講演会報告" をクリックしてください。

『第5期通常総会について』

今回は、飛騨のあぶらむの里で総会を開催させていただきます。多くの方のご参加をお待ちしています。

2017年度会費納入いただいた会員各位に対して、1月下旬～2月上旬頃に第5期通常総会の正式案内状を郵送させていただきます。

日時：2017年3月18日(土) 16:00～(15:30～受付開始)

場所：あぶらむの里 諸魂庵(岐阜県高山市国府町宇津江 3225-1)

議案：第1号議案 第5期活動報告、決算報告、監査報告

第2号議案 第6期活動計画、予算案

2016年あんなこと (あぶらむこの一年)

- 1月・穏やかに晴れ上がった墨絵のような元旦の朝。この地に来て30年近く。一度も屋根の雪降しをしない雪なしの冬となった。
- ・9日～11日 あぶらむ雪祭り。沖縄からの参加者多数。しかし敷地内には全く雪なし。雪を求めてあちこち探し歩く状態。
 - ・雪のない冬、第2あぶらむ物語の原稿書き開始。
- 2月・7日 バイク初乗り。それほど全く雪なしの冬。
- ・11日 猪伏山雪上ウォーキング。一冬に一度あるかないかの上天気。
- 3月・5日(土) 第4回あぶらむの会通常総会(於 東京神田キリスト教会) 総会后杉木峯夫氏トランペット特別ミニコンサート。
- ・ナメコ、シイタケのホダ木伏せ
 - ・26日 春一番の会
- 4月・15日 あぶらむの里桜開花、例年より10日ほど早い。
- ・15日～18日 第23回さくら道国際ネーチャーラン(名古屋～金沢250km)
 - ・わさび田づくり(夏の大洪水で失敗に終る)
 - ・畑、田起し開始。
- 5月・6日 3年振りにミツバチが巣箱に入る
- ・16日 田の代かき終了。21日田植え。
 - ・22日 ミツバチ3群となる。
- 6月・新作業棟に附属する材料倉庫自力建設開始(4間×6間)
- ほぼ毎日のように丸太と格闘する。
- ・19日 岐阜県養護里親研修会(全行程6回)あぶらむとして5名で参加
 - ・24日 イギリスEU離脱決定

- 7月・6月一杯で材料倉庫の丸太組み終了。屋根のタル木打ち等屋根加工に入る。
- ・18日 東海地方梅雨明け宣言。夏の日差しとなる。
 - ・養護里親研修会施設実習2日間
 - ・29日 岐阜生と死を考える会あぶらむ宿泊研修
- 8月・2日～7日 あぶらむ里山自然学校（スタッフ加え総勢35名）
- ・8日～11日 原発事故被災地 福島小名浜型テモテ教会教会学校キャンプ（総勢11名）
 - ・22日～23日 あぶらむツーリングクラブ1泊 奥能登ツーリング
 - ・27日 第9回桂歌之助落語会
- 9月・8月一杯で材料倉庫屋根づくり終了。9月からカベはり開始。
- ・10日 広島カープ25年振りの優勝。
 - ・16日～20日 韓国ソウル城郭ウォーキング（参加者10名、韓国側5名）
 - ・24日 稲刈り（9月毎日のように雨だったため、史上最悪の稲刈り）
 - ・材料倉庫完成。材料の移動開始。
- 10月・8日 第9回WAYNOアンデスの風コンサート
- ・10日～12日 日本聖公会大阪教区有志あぶらむ訪問団。
 - ・12日～13日 JA 看護専門学校2年生あぶらむ宿泊研修会
 - ・14日 脱穀（48袋平年並）
 - ・里内で松タケ、天然しめじ採れる。
 - ・25日～26日 山形キリスト教独立学園視察訪問。
 - ・30日 沖縄聖ジョージ修道院より“鐘”が届く。あぶらむの里内に美しく響き渡る。
- 11月・飛弾夕陽ヶ丘養護施設入所の子と里親ショートステイのお見合いを計る。
- ・9日 米国大統領選、共和党のトランプ勝利す。
 - ・越冬準備開始
 - ・岐阜県の養護里親資格研修修了に付き、養護里親認定の書類提出。
 - ・26日 落葉はき大会
 - ・養護施設入所の子のあぶらむショートステイ
- 12月・13日 あぶらむの会理事会（於 東京）
- ・あぶらむ通信発行
 - ・23日 あぶらむクリスマス会（ご苦労さん会）

2017年 こんなこと（行事予定）

- 1月・7日～9日 あぶらむ雪祭
- 2月・10日～13日 あぶらむ雪祭及び、四十八滝周辺雪上ウォーキング
- ・24日～26日 猪伏山雪上ウォーキング
- 3月・11日～12日 春一番の会
- ・18日～20日 あぶらむの会通常総会（於 あぶらむの里）

5月・20日 出植え

7月15日～17日 野麦峠ウォーキング(予定)

8月4日～9日 あぶらむの里山自然学校

・26日 第10回桂歌之助落語会

—あぶらむの会創設30周年記念スペシャル—

9月・8日～30日 高柳真「愛楽園で出会った人」絵画展

・16日(土)～18日(月) あぶらむ創設30周年記念会

・23日(土)～24日(日) 稲刈り

10月・7日(土) 第10回WAYNOアンデスの風コンサート

・8日(日) 第1回みんなで持ち寄りコンサート

11月・3日(金)～7日(火) 法明さんが案内する韓国秋の慶州の旅

2018年3月24日～4月4日 あぶらむ創設30周年記念プログラム

第16回子どもから大人までのネパールの旅

おしらせ

あぶらむ創設30周年記念として二つの旅を企画しています。

今からの準備がありますので参加希望予定なさる方は早めにご連絡下さい。
特に子どもから大人までのネパールの旅に参加希望、予定される方は早めにご連絡下さい。

○法明さんが案内する韓国秋の慶州の旅

予定日 2017年11月3日～7日

法明さんは慶州にある香林寺のお坊さんで、とっても博学で魅力的な人です。
十数年来の大切な友人です。

○第16回子どもから大人までのネパールの旅

予定日 2018年3月24日～4月4日

2014年大地震に見舞われたネパールですが、平常にもどってきました。私たちが訪ねるチトワンやアンナプルナ地区は被害は全くありませんでしたが、ネパール応援のためにもこれまで多くの子ども達を育ててきた旅を再開したく考えています。

||||| 寄付者一覧 ('15年12月14日～'16年12月12日) 敬称略 |||

相川喜久枝／青柳真知子／安藝淳二／浅野純子／池崎純一／一柳典利・百／岩崎静子／岩田幼稚園／岩坪瑞枝／上田敏明／鶴川久・貴子／鶴川雅行／大西修／岡田賛三／沖縄聖マルコ保育園／片山佳子／加藤寛／金城盛弘・由美子／河合由美子／川口基督教会／岸村信治／北林淳子／北山和民／串間千秋／倉石昇／黒崎光太郎／小島政一／小島正則・幸子／小柳證／坂本吉弘／笹岡節夫／佐々木慶太郎／笹部昭博／佐藤芳子／澤野弥生／JMS 代表 岩沢満／静谷英夫／篠田泰之／渋谷聖ミカエル教会／鳥袋洋子／清水秀明／庄内キリスト教会／新開春樹・桂／杉浦進／鈴木武次・保子／高瀬留美／高柳真／田中国臣／田中洋子／棚橋亜紀・彩心／谷中秀治(アンデスの風ウェイノ)／玉手健裕／俵里英子／丹安紀子／中部学院大学宗教委員会／佃田久子／寺田信一／東京セントポールライオンズクラブ／富山聖マリア教会／中島務／中村力・英子／中村洋／中村芳枝／新家恵子／野田修治／長谷川秀司／畑井正春／畑野榮一・寿子／速水直子／原川恭一／比屋根るり子／平野照子／福岡女学院中学高等学校宗教部／藤井和彦／古川齊／古沢伸雄／北條鎮雄／星野八千代／前田晃伸・容子／松井明子／松井勲／松平信久／松戸聖パウロ教会／松本昌子／三沢悠子／宮城正子／宮古聖ヤコブ教会／宮田洋子／宮本房江／武藤六治／八木克道／矢崎ふき子／安田昭彦・香恵／山崎剛／山田益男／湯田啓一／横浜聖クリストファ教会／吉川恵子／吉羽真治／李禎善／レーマン幸子・若林新平

||||| 物品寄付者一覧 ('15年12月14日～'16年12月12日) 敬称略 |||

萩アリミノ 田尾兵二／クラブマンファクトリー 高橋秀

||||| ガヴィス基金 ('15年12月14日～'16年12月12日) 敬称略 |||

上田敏明

||||| ガヴィス基金 本年度支援先 |||

NPOアジア子どもの夢／原発被災地支援・小名浜聖テモテ教会 教会学校キャンプ

||||| 2016年会費納入者一覧 ('15年12月14日～'16年12月12日) 敬称略

相沢牧人／赤井充也／赤松道子／秋月慎直／朝野恵美子／朝比奈諠／朝比奈時子／味岡敏江／穴井悦子／雨宮寿子／飯島千津子／飯田麻子／飯田孝太郎／池淵透／井沢夫佐子／一柳典利・百／井出米蔵／伊東日出子／伊藤幸史／稲葉世紀子／井上るみ子／入野豊／岩間光雄／上田敏明／上村誠・洋子／鶴川久・貴子／内田孝・由美／梅沢雪子／江洲良秀／大城恵子／大杉匡弘／大橋雅子／大平和子／大房健樹・和子／岡野峻／岡登信義／小川卓／尾崎和廣／小沢祐子／鬼本照男・麗子／鬼本博文／小野裕・伸子／笠井正志／笠原雅子／片岡義博／片桐多恵子 勝山千里／加藤正／門谷成美／金子眞／加納美津子／鑄木武弥／唐木田麻起子／河合昇／河合山美子／川上詩朗・美砂／川上玲子／川口弘二・暁子／河田建二／川満すわ子

／岸井孝司／木島出／岸元忠義・静江／岸本望／久世治靖／工藤修己／倉石昇／倉辻明男／栗山盛雄／栗山洋子／黒田則子／小池直子／小泉恵子／小林賢三／小松純一／小柳證／齊藤寛明／齊藤美登里／酒井厚子／桜井智則／笹岡純也・由紀子／佐々木国夫・紀久江／佐藤耕一／佐藤純／佐藤哲典／佐藤敏子／佐藤芳子／座間幹生／塩田純子／篠田泰之／篠宮慶次／柴原薫／洪沢一郎／洪谷真理／島袋洋子／島文子／清水幸平／清水靖夫／志村弘子／下田英一／下畑幹／城下彰／杉村進／杉本良平・和子／鈴木武次・保子／鈴木千絵／鈴木信子／鈴木正士／鈴木裕子／鈴木康邦・知子／鈴木康仁／ストップス静江／砂川博秋・美智子／聖母訪問会／仙敷正俊／染谷孝章／高沢孝子／高瀬留美／高橋保／高濱友理江／高柳真／田口清吾／竹中浩／武原正明／田中篤／田中孝子／谷市三／谷昌二・利子／谷孝子／田部博文／俵里英子／丹安紀子／筑井宏子／佃寿子／寺谷恵美子／桃原松五郎／時高照子／泊哲次／富永隆史・敦子／友野博樹・和子／豊永泰子／直井雅子／長坂尚／中台信子／長縄年延・光子／中野えり子／中村洋／中山美世子／長谷幸雄／西川照／西口晃／西口喜久枝／西村正和／根本利子／野崎久子／野田修助・和子／萩尾信也・出穂／萩谷長生・睦子／土師晴子／長谷川秀司／畑井正春／比嘉良侑／福田一太／福田亜矢子／福田桂／藤井誠・ひろ子／藤本隆／古市進／古川秀昭・昭子／古澤昭夫・タイ／星野一朗／細井哲士／前田晃伸／前田晃／前田広世／前田眞智子／前田容子／松井明子／松井勲／松岡龍哉／松田捷朗／丸山千早／三原エイ／三原一男・京子／三村英夫／宮城正男・正子／宮崎秀貴／武藤六治／宗像千代子／室岡恵／百井幸子／衆樹歩実／八木克道／矢野裕史／山内寿美子／山崎美貴子／山田益男／山本泰子／吉野美智子／吉野康／吉羽真治／若園絨志

||||| 新規会員（'15年12月14日～'16年12月12日） 敬称略 |||||

朝野恵美子／井上るみ子／小沢祐子／鍋木武弥／岸本望／工藤修己

《「あぶらむの会」について》

「あぶらむの会」は旧約聖書創世記に出てくる、信仰の父アブラハムの旅立ちの前の名前、「アブラム」に由来しています。それによれば、彼はその内的必然性故に、安住の地を離れて「行く先知らずして」旅立ちました。全てに対してあまりにも安定を求める今日、私たちは旅としての人生に臆病になり、旅に必要な能力を欠いているように思われます。

「あぶらむの会」は、自己の人生に果敢に挑戦し、人生の良き旅人を育てるため、それに必要な訓練や出会いの場を提供してゆくことを目的としています。